

ワークライフバランスを高める保護者支援のあり方について

—日本と中国の比較から—

保護者支援

梅本菜央, 龔鈺丹, 覃小慧, 丁元

本研究では、日本と中国における、母親の育児感情とワークライフバランス、祖父母の協力等との関連を調べることにより、母親にとってよりよい保護者支援のあり方について検討した。その結果、ワークライフバランスに影響する育児感情は日本と中国とで共通する部分があった。そこで、ワークライフバランスに影響する育児感情を高める保護者支援のあり方について様々な角度から考察をおこなった。ワークライフバランスを高める可能性のある保護者支援とは、身近な人が母親のサポートをすることで仕事や生活のバランスを保つことができるように支援するのに加え、母親が様々な情報に振り回されないことがないよう、専門的な立場から子育てに関する正確な情報を伝えることであることが考えられた。

Keywords : 保護者支援, 育児感情, ワークライフバランス, 祖父母の協力

1. 問題と目的

子どもを育てる環境は、その家庭によっても、また、社会的な背景によっても異なることが考えられる。そこで、本研究では、日本と中国の子育て中の母親にアンケート調査を実施し、保護者支援のあり方について検討することを目的とする。

まず、日本において、子育て支援について、様々な政策が行われている。その一つに、子ども・子育て支援新制度が挙げられる。内閣府(2016)は、この制度について、子育てを「量」と「質」の両面から、子育てを社会全体で支える制度であるとし、具体的な支援策として、市町村が中心となり、「市町村子ども・子育て支援事業計画」を作成することや、子育てと仕事を両立するための支援である、「仕事・子育て両立支援事業」を創設すること等を挙げている。他にも、令和3年に育児・介護休業法が改正され、令和4年から段階的に施行される等、近年、日本では仕事と子育てを両立できるようにしようとする動きがある。このように、日本では、子育てを社会全体で支えていこうとする動きが見られる。こうした、社会的な仕組みや制度を整えていくことも保護者支援においては重要な視点であると考えられる。他方で、実際に保護者を対象に調査を実施し、どのような支援が有効であるのかを明らかにすることも重要な視点であると考えられる。

柏・佐藤(2018)は、子どもの育ちに影響を与える3

つの観点として、育児感情、親子関係、夫婦関係を挙げている。そして、「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート」とこれらの3つの観点との関連を調査している。育児ソーシャル・サポートと育児感情の関連について検討した結果、育児ソーシャル・サポートが高いと、育児の負担感や不安感はやや減少し、育児への肯定感はやや高くなることがわかった。

また、荒牧(2005)は、育児感情とソーシャル・サポートとの関連について、ひとり親とふたり親の比較をおこなっている。その結果、育児への否定的感情が高く、肯定的感情が低いのは、ふたり親で夫からのサポートが期待できる環境にあるにも関わらず、サポートが得られていない群であった。さらに、荒牧・無藤(2008)は、夫や園の先生、友人のサポートが多いほど、育児への肯定感は高いことを指摘している。

母親に対して身近な人がサポートを行うことが重要であることは、これらの研究結果からもわかる。しかし、近年、重要視されてきている、家事と育児、さらに仕事との両立といった、ワークライフバランスとの関連を調べた研究はまだ少ない。女性の社会進出が進み、女性の育児や家事といった家庭生活と仕事のバランスが重視されるようになってきた近年の社会的な状況を踏まえると、母親へのサポートのみに着目するのではなく、ワークライフバランスを

高めるのは、どのような育児感情なのかということ
を明らかにし、そのような育児感情を高めるような
支援を行っていくことが重要であると考えられる。

次に、保護者支援という視点について、中国にお
ける状況を紹介します。中国では、日本のような国を
あげた社会的な支援はあまり確立していない(斎,
2017)。しかし、中国では伝統的に、働く保護者に代
わり祖父母が子どもの面倒を見ることで、保護者を
支援する。これに関し、周・鄭(2015)は、中国では、
幼児期の子どもの4割以上が、祖父母に世話をしても
らっていると述べている。また、宋(2019)は、中国で
は、2人目の子どもを産むかどうかを考える際、多く
の母親は、祖父母が子どもの世話をしてくれるかを
考慮すると指摘している。これらのことから、中国
では、祖父母の協力が母親の就労や子を産む選択に
影響していることがわかる。そして、祖父母の協力は、
母親が仕事と家庭生活のバランスを保つ上で、
重要であることが指摘されている(宋, 2019)。このよ
うな状況であるため、中国では、多くの女性が子ど
もを産んでも仕事に復帰し、家庭内で長時間子ども
の世話をしている母親は少ない。さらに、江蘇省人
民出生意向・出生行動研究会(2011)の調査によると、
母親が育児に関わる時間は、祖父母が育児を手伝っ
てくれる場合は、平均6.1時間であるのに対し、祖父
母の協力を得ていない場合は、平均9.1時間であるこ
とが報告されている。このことから、中国では、祖
父母の協力が、母親の育児や家事にかかる時間的な
負担を軽減していることがわかる。

これらを踏まえると、中国では、日本のような国
をあげた保護者支援の仕組みというよりは、身近な
祖父母の協力が、母親の育児への負担を軽減し、ワ
ークライフバランスを保つのに役立っている可能性
が考えられる。

しかし、祖父母の協力は、母親にとって必ずしも
よいものとはいえない可能性もある。中国における
祖父母による子育ての研究の中には、祖父母が子育
てに過度に関与することで、母親との考え方に違い
が生じ、それが母親にとってストレスになるという
指摘もある(趙・張・陳, 2020)。祖父母の協力がどの
程度、保護者支援において有効なのかということは、
改めて調査する必要があるだろう。そこで本研究で
は、祖父母の協力が育児感情にどのように関連する
のかも検討する。

以上のことから、本研究では、母親の育児感情と
祖父母の協力、ワークライフバランス等の関連を調
べることにより、子どもをもつ母親にとってよりよ
い保護者支援のあり方を検討することを目的とす
る。また、育児感情には、育児をする環境、つまり

居住形態も関わっている可能性がある。そこで、本
研究では、居住形態との関連も併せて検討する。

2. 方法

調査対象者・調査実施方法

日本および中国の、20代、30代の子どもをもつ母
親各300人ずつを調査対象に、オンラインによるアン
ケート調査を実施した。

調査内容

フェイスシート

母親の年齢・子どもの年齢について 母親の年齢
および子どもの年齢について尋ねた。

居住形態について 居住形態について、アパート、
マンション、一軒家の中から選択してもらった。

質問項目

育児感情 荒牧(2008)の育児感情尺度のうち、負
担感(7項目)、肯定感(4項目)の計11項目、中谷
(2008)の育児に関する項目のうち、育児肯定感(4項
目)の計15項目を使用した。「かなり当てはまる」
～「全く当てはまらない」の4件法で回答を求めた。

育児への協力者 子育てに協力してくれている人、
子どもの面倒を見てくれる人や機関について、配偶
者・パートナー、祖父母や親せき、保育施設、友人
の中から選択してもらった(複数回答可能とした)。

祖父母の協力 ベネッセ教育総合研究所(2018)
の、幼児期の家庭教育国際調査の、祖父母の協力に
関する項目(5項目)を使用した。家事、幼稚園・保
育園などの送り迎え、子どものことに関する相談等
の項目について、祖父母に協力してもらうことがど
れくらいあるかを、「よくある」～「ぜんぜんない」
の4件法で回答を求めた。

ワークライフバランス ベネッセ教育総合研究所
(2018)の、幼児期の家庭教育国際調査の、生活に関
する満足度に関する項目(5項目)を使用した。自分
の家事について満足している、「自分の子育てにつ
いて満足している」「仕事と家庭生活のバランスに
満足している」等について、「かなり当てはまる」
～「全く当てはまらない」の4件法で回答を求めた。

3. 結果

ここでは、結果の詳細の公表は控える。子どもの
年齢が10歳以下の母親を分析対象とした。母親の平
均年齢は、日本は33.64歳、中国は30.71歳であった。
子どもの平均年齢は、日本は4.21歳、中国は4.51歳
であった。居住形態の内訳、育児協力者および機関の
内訳のみ、以下のFigure 1 から Figure 4 に示す。

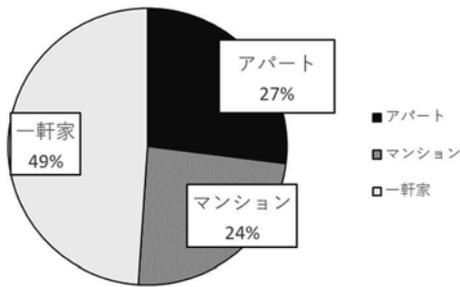


Figure 1 居住形態の内訳(日本)

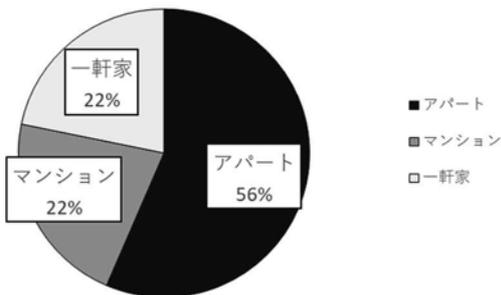


Figure 2 居住形態の内訳(中国)

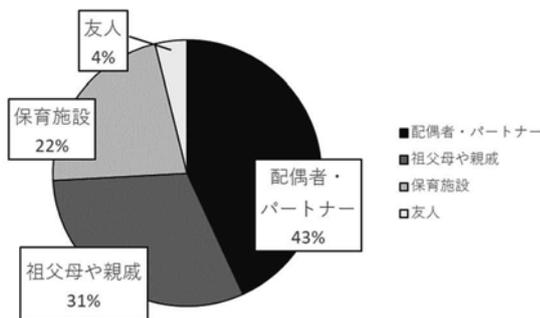


Figure 3 育児協力者・機関の内訳(日本)

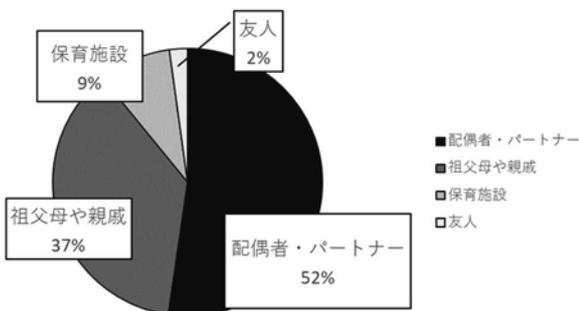


Figure 4 育児協力者・機関の内訳(中国)

4. 考察

ワークライフバランスを高める保護者支援とは

結果の詳細の公表は控えるが、ワークライフバランスに影響する育児感情は、日本と中国とで共通する部分があった。そこで、ワークライフバランスを

高める可能性のある保護者支援について様々な角度から考察をおこなった。

柏・佐藤(2018)は、専門家による育児ヘルプは、母親の育児不安感情を低減させ、肯定的育児感情を高める効果が期待できると指摘している。保護者と接することが多い専門家として、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭等が考えられる。これらの立場にある人が、母親が子育てについて相談しやすい雰囲気や接したり、母親の子育てを肯定するような言葉かけをしたりすることが、母親としての肯定感を高めるために、重要な役割を担うことが考えられる。

また、荒牧・無藤(2008)は、夫や園の先生・友人のサポートが多いほど、育児への肯定感が高いことを指摘している。他方で、荒牧(2005)は、情報サポートが多いほど、育児不安は高くなることを指摘している。ここでの情報サポートは、育児書やインターネット上の子育て情報、新聞の育児欄等からどれくらい情報を得ているかということを示している。これらのことから、母親としての肯定感を高めるためには、母親の身近な人がサポートすることに加え、母親がインターネットや育児書などの情報に振り回されないような支援をおこなうことが必要であると考えられる。

母親が情報に振り回されないようにする支援としては、例えば、保育士等が専門的な立場から、普段から保護者に子育てについての正しい情報を伝えることが挙げられる。専門的な立場からの正しい情報や声掛けは、母親の子育てへの不安を軽減し、母親が「自分は子育てができています」と感じ、安心して子育てができるようにすることにつながると考えられる。そもそも、インターネットや育児書などの情報に過度に頼ろうとする時点で、孤独感を感じてしまっていることが考えられる。母親に対し、このような支援を行うことは、子育てへの犠牲意識・孤独感を感じにくくすることにも役立つかもしれない。

次に、中国における子育ての状況からもワークライフバランスを高める可能性のある保護者支援のあり方について考察をおこなった。

前述の通り、中国では、日本と比較すると、子育てに関する社会的な支援はまだ確立されていない(斎, 2017)。それでも、中国の母親はワークライフバランスが高い。中国では、働く保護者に代わり、祖父母が積極的に育児に参加している。しかし、趙・張・陳(2020)も指摘するように、祖父母が子育てに過度に関与することで、母親との考え方に違いが生じ、それが母親にとってストレスになる等、問題も生じている。本研究における結果の詳細の公表は控えるが、本研究の結果や、これらの先行研究を踏まえる

と、祖父母の協力だけで肯定的な育児感情を高めたり、ワークライフバランスを高めたりするのは難しいことが考えられる。

日本における研究ではあるが、荒牧(2005)は、母親のもつ育児感情とサポートについて、ひとり親家庭、ふたり親家庭の比較をおこなっている。そして、祖父母との同居率が高く、祖父母からのサポートも多いひとり親家庭において、祖父母からのサポートと母親の育児感情には関連がみられないことを指摘している。これに関して、荒牧(2005)は、祖父母から得る支援は、母親にとって当たり前になっており、当たり前であるからこそ、母親の育児負担感や育児不安などの育児感情を軽減する効果はもっていない可能性を指摘している。これは、祖父母の協力が伝統的に、当たりの状況である中国にも同じことがいえると考えられる。

しかし、前述の江蘇省人民出生意向・出生行動研究会(2011)の調査からも明らかであるように、祖父母が協力することは、母親の育児や家事にかかる時間を減らしており、中国において、祖父母の協力が、働く母親にとっては欠かせないものであることも確かである。これらのことから、祖父母の協力は、育児感情やワークライフバランスそのものを左右するのではなく、母親の時間的な負担を減らすという意味では役立つといえる。祖父母の協力は、育児感情やワークライフバランスに対する直接的な影響はなくとも、母親の時間的な負担を減らすことができる結果、中国の母親のワークライフバランスは保たれているのかもしれない。つまり、支援の有無というよりは、どの程度関与するのか、どのような方法で支援するのかといった、支援のあり方が重要であるといえる。これらを踏まえると、祖父母を含む、母親の身近な人は、子育てに過度に関与することなく、母親の育児や家事に対する負担を軽減することが求められると考えられる。

このような、母親の身近な人の支援により、母親に時間的な余裕を与えることは、ワークライフバランスを高める可能性がある。つまり、母親に時間的な余裕を与えることは、母親が子育てに対する犠牲意識や孤独感を感じにくくし、母親であることを肯定的に捉えることに役立つことが考えられる。その結果、ワークライフバランスも高くなると予測できる。

以上のことから、ワークライフバランスを高める可能性のある保護者支援とは、母親が多様な情報に振り回されることがないよう、専門的な立場にある人が正しい情報を伝えることに加え、身近な人がサポートを行うことで、母親に時間的な余裕を与える

ことであると考えられる。

引用文献

- 荒牧 美佐子(2005). 育児への否定的・肯定的感情とソーシャル・サポートとの関連—ひとり親・ふたり親の比較から— 小児保健研究, 64, 737-744.
- 荒牧 美佐子(2008). 幼稚園への入園前後における母親の育児感情の変化 家庭教育研究所紀要, 30, 139-149.
- 荒牧 美佐子・無藤 隆(2008). 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に 発達心理学研究, 19, 87-97.
- ベネッセ教育総合研究所(2018). 幼児期の家庭教育国際調査—4か国の保護者を対象に— ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所.
- 趙 鈺・張 增敏・陳 增賢(2020). 育児が既婚女性の就業に与える影響—世代間分担による調整効用— サウスウエスト石油大学紀要(社会科学版), 22(1), 26-32.
- 柏 まり・佐藤 和順(2018). 育児ソーシャル・サポートにおける保育施設の可能性—幼稚園児を持つ親の意識を手がかりとして— 保育学研究, 56, 235-246.
- 江蘇省人民出生意向・出生行動研究会(2011). 江蘇省人民出生意向・出生行動研究—2010年フォローアップ調査報告— 中国人口年鑑, 1, 223-233.
- 内閣府(2016). 子ども・子育て支援新制度なるほど book 平成28年4月改訂版.
- 中谷 祥子(2008). 母親の子育て意識の変化と子育て支援の効果 家庭教育研究所紀要, 30, 187-199.
- 斎 少傑(2017). 中国における児童福祉と子育て支援に関する基礎研究—日本の現状を参考に— 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士論文.
- 宋 月萍(2019). 介護責任の家庭内化と世代分担:親の同居が女性の労働参加に与える影響 人口研究, 43, 78-89.
- 周 云・鄭 真真(2015). 女性, 時間と育児 北京大学学报, 5, 143-151.